

知的障害のある児童生徒への 教材開発と指導 ～お金の概念理解～

発表番号 202103



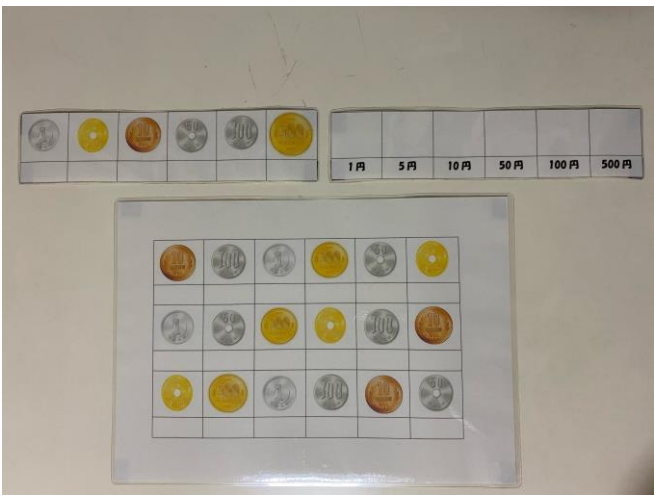
発表の流れ

- ①対象児童生徒のイメージ
- ②学習指導要領における位置づけ
- ③指導目標
- ④評価基準
- ⑤教材について
- ⑥改善点
- ⑦課題

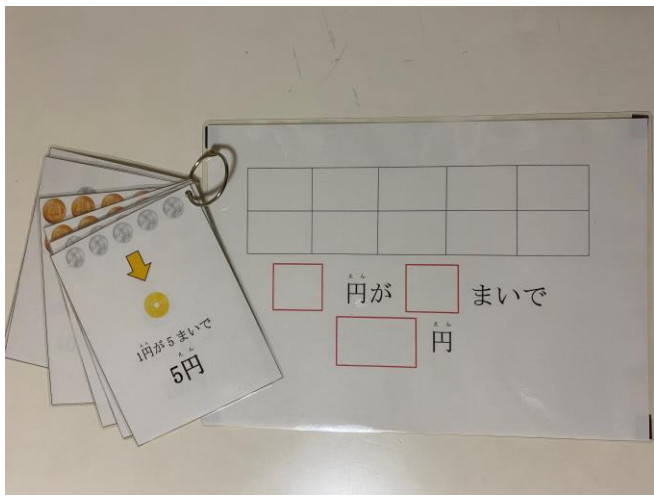


作成した教材一覧

教材①「コレ、何円？」



教材②「お金を変身させよう！」



教材③「レッツ、お買い物！」



①対象児童生徒のイメージ

- 小学部高学年から中学部の軽度の知的障害のある児童生徒。
- 1～100までの数の概念理解はできる。
→お金に置き換わると理解が難しい。
- 教師の支援があれば、硬貨の色や数字を見て分別ができる。
- 5円、50円、500円があっても使うことができない。
→等価関係の理解ができていない。
- 1人でお金を支払う経験は無し。



②学習指導要領における位置づけ

4 指導計画の作成と内容の取扱い

(2) 内容の取扱いについての配慮事項

「(ア) 内容の『A数と計算』の指導に当たっては、次の○ア及び○イについての金銭の価値に親しむことを取り扱うものとする。」については、**児童の数理解に配慮し、生活科との関連を図りながら、金銭処理に関する指導を行うようにすることである。**

[文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部) 138ページ]



②学習指導要領における位置づけ

金銭処理とは、例えば、何枚かの百円硬貨で買えないときにもう1枚出して買うこと（「同等，多少」の理解のある児童であれば，同じ硬貨や紙幣を追加すること）や値段にちょうどのお金を用意して買うこと（数理解が10までの児童であれば，値段が374 円のときに，3・7・4など数字の並びとして見ることや各桁に対応する金種を覚えて，百円硬貨を3枚，十円硬貨を7枚，一円硬貨を4枚用意すること），値段に対して価値が少し大きいお金を出して商品とおつりを受け取ったりすること（数の大小理解のある児童であれば，値段が374 円のときの400 円や380 円など，きりのよい代金を用意すること）などである。

値段にちょうどのお金を用意して買うこと



②学習指導要領における位置づけ

また、算数科における各領域間の指導の関連を図ることはもちろんのこと、例えば、用語の理解にあっては国語科との関連、**金銭の処理であれば算数科における数理解や生活科と関連があることから、各教科等を横断的に見て指導に当たることにも留意する。**

[文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部) | 37ページ]



③指導目標

- 硬貨の分別、等価関係の理解、金額に合った硬貨を揃えることができる。

硬貨の分別……教材①「コレ、何円？」

等価関係の理解……教材②「お金を変身させよう！」

金額に合った硬貨を揃える……教材③「レッツ、お買い物！」



④ 評価基準

- 硬貨の分別ができる。

- ◎教師の支援なしで、分別ができる。

- 教師の支援はあるが、主体的に分別しようとしている。

- 等価関係の理解ができる。

- ◎教師の支援なしで、等価関係を表す空欄シートに硬貨や数字のカードを置くことができる。

- 教師の支援はあるが、主体的に空欄を埋めようとしている。

- 金額に合った硬貨を揃えることができる。

- ◎教師の支援なしで、硬貨準備シートを使いながら、揃えることができる。

- 教師の支援はあるが、硬貨準備シートを使いながら、揃えようとしている。



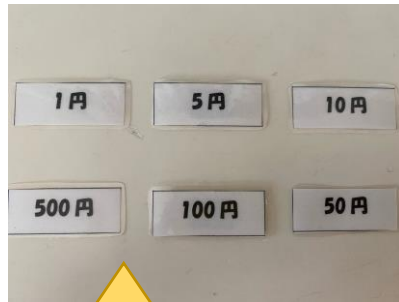
⑤教材について

準備物

- ・マグネットシール・ボードマーカー・ホワイトボード・ラミネートフィルム (A4) ・ラミネーター
- ・硬貨、金額、数字、絵カード・はさみ・穴あけパンチ



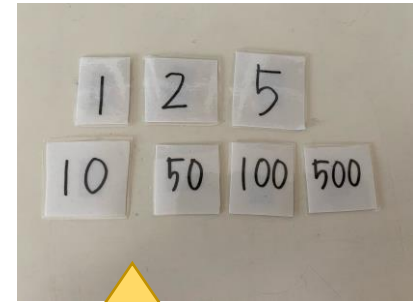
5, 50, 500円は
各4枚。1, 10,
100円は各10枚。



各3枚。



様々な食べ物イラ
ストカードは10枚
程度。



各1枚。



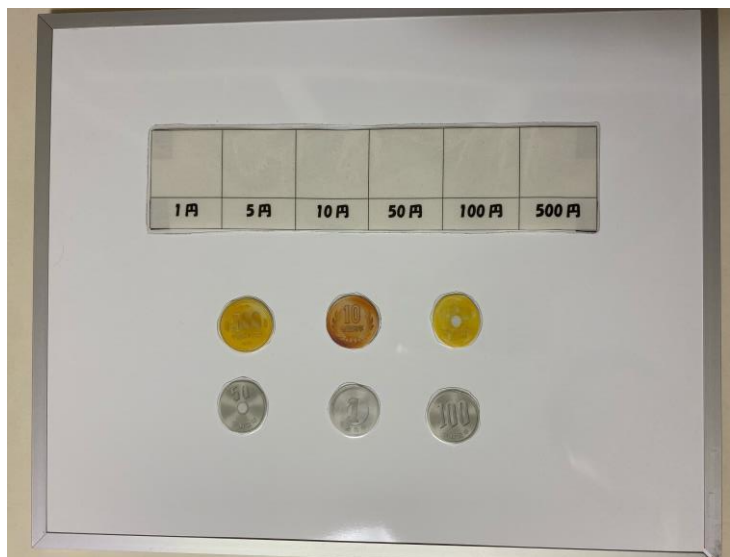
写真の3点は、
100均で購入。
(ホワイトボードは
330円)



教材1「コレ、何円？」(分別カード)



硬貨と金額を一致させたものを提示し、教師と硬貨の特徴(色、数字、模様、穴が開いている等)を確認する。



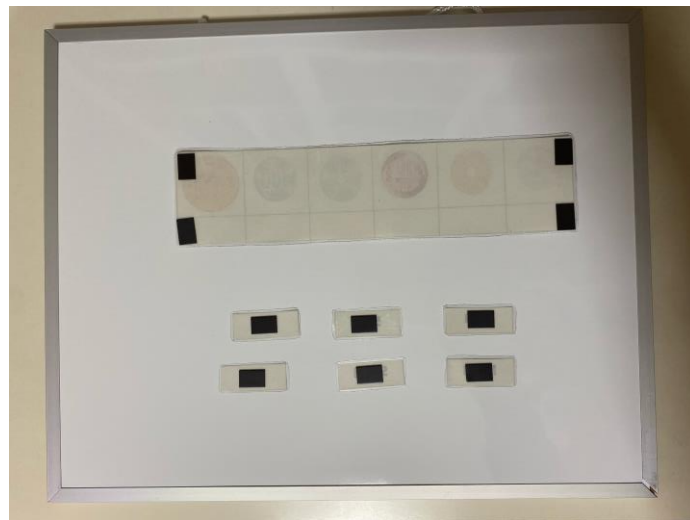
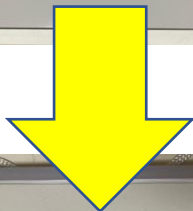
硬貨のところが空欄になっているシートを使い、下に並んでいる硬貨カードを見童生徒が自分で選び、正しい金額のところに硬貨カードを置いていく。



教材1「コレ、何円？」(分別カード)



金額のところが空欄になっているシートを使い、下に並んでいる金額カードを見童生徒が自分で選び、正しい硬貨のところに金額カードを置いていく。



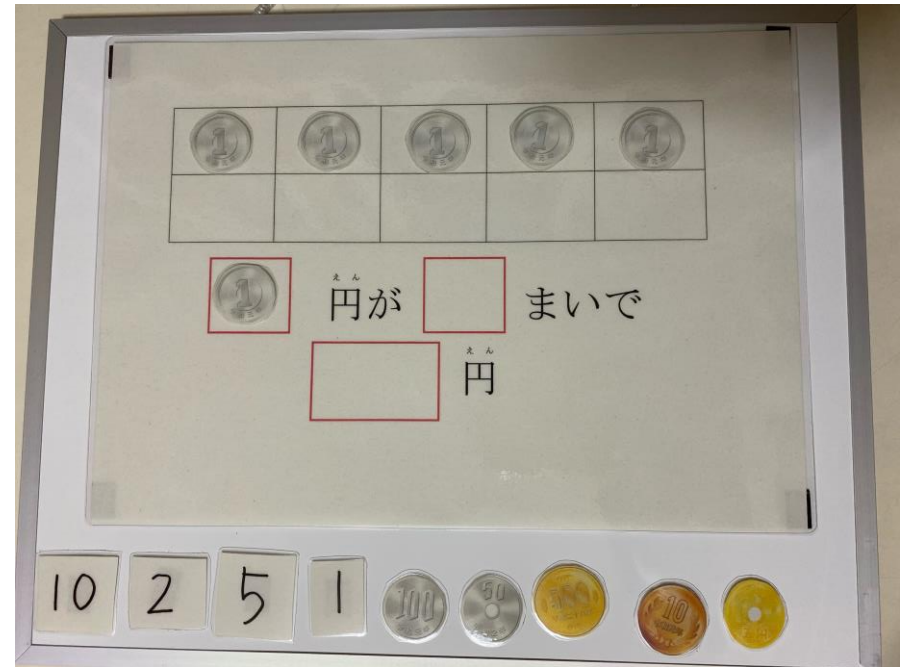
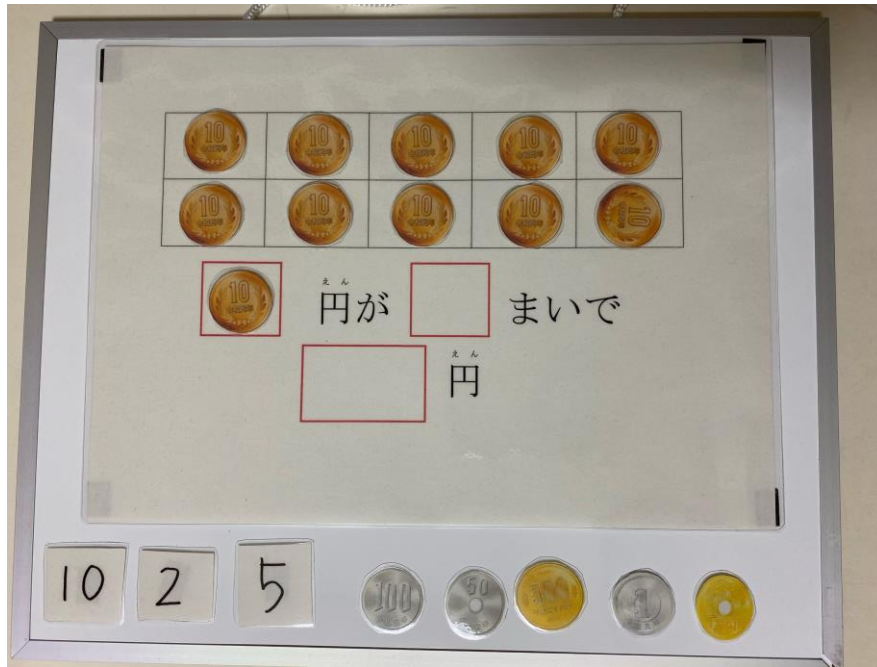
教材2「お金を変身させよう！」(等価関係学習カード)



硬貨の等価関係を硬貨のイラストと、言葉で表現したもの。教師とこの手本カードを見ながら確認する。確認後、硬貨の絵の上に実際に硬貨や硬貨の絵カードをのせる活動を取り入れる。(右の写真のようにカードに穴をあけて、綴じた。)



教材2「お金を変身させよう！」(等価関係学習カード)



硬貨と数字を置くところ全てを空欄にしたカード。様々な問題を作成可能。教師が埋めた空欄以外のところに、児童生徒が下のカード群から正しい硬貨の絵カードや数字カードを選び取る。(最初は、等価関係カードを見ながら取り組んでも良い。)



教材3「レッツ、お買い物！」(硬貨準備シート)



金額を書いたカードを並べる。ラミネートの上からホワイトボード用のペンで金額を書いているので、いつでも金額を変えることができる。

ポイント: 金額が視覚的に分かるようにしておくこと。



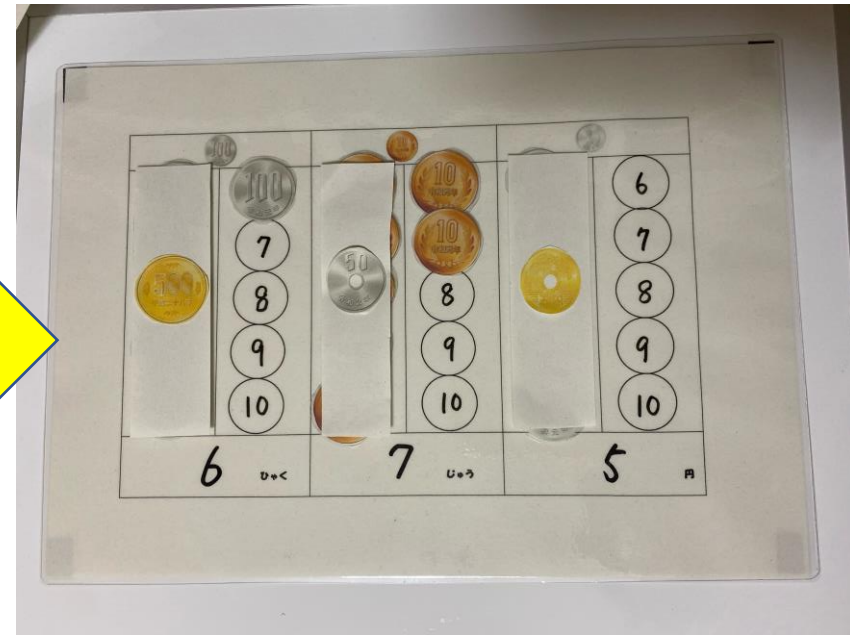
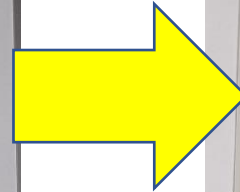
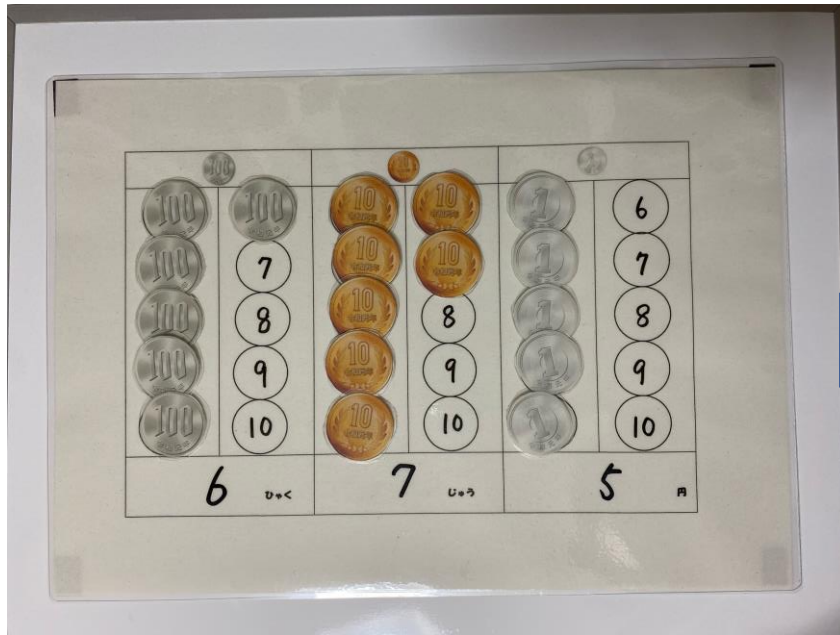
教材3「レッツ、お買い物！」(硬貨準備シート)



児童生徒に食べ物の絵カードを選ばせて、選んだカードに書いてある金額を硬貨準備シートの下のところ各位の数字を書く。その後、硬貨カードを必要な分だけ並べていく。



教材3「レッツ、お買い物!」(硬貨準備シート)



両替が可能なことに、気づくことができた場合は、右の写真の両替シートを上置きする。(気づくことができなかった場合は、等価関係を表すカードを確認し、気づかせる。)



⑥改善点

- 切る作業が多い。
→硬貨のイラストではなくて模擬銭や本物の硬貨を使用。
- 作成時間が1時間以上かかった。
→切る作業を減らす。
- 硬貨カード、商品カードに厚みが無く、持ちにくい。
→発泡スチロールや段ボールに貼る。



⑥改善点

- 硬貨の表面しか使っていない。
→本物の硬貨や模擬銭を使用。
- 硬貨の重さや大きさを考慮できていない。
→本物の硬貨や、重さや大きさを段ボールなどで調整した硬貨カードを使用。



7 課題

- 紙幣の概念理解。
- 硬貨と紙幣を組み合わせた等価関係の理解。
(例：100円が10枚で1000円)
- 値段に対して価値が少し大きいお金を出して商品とお釣りを受け取ること。

